

日蓮大聖人御書全集

うえのどのごへんじ

上野殿御返事

かんぬしとうひご こと

（神主等庇護の事）

新版
1900
〜
1901

うえのどのごへんじ　かんぬしとうひご　こと

上野殿御返事（神主等庇護の事）

こうあん　ねん　がつ　にち　さい　なんじようときみつ

弘安3年（'80）7月2日　59歳　南条時光

い　ろくがつじゅうごにち　見　参　よろこ　い　そうろう

去ぬる六月十五日のげんざん、悦び入つて候。さては、

神　主　とう　抱　置　たま　そうろう

こうぬし等がこと、いままでかかえおかせ給いて候こと、

有　難　覚　そうろう　内　々　ほけきよう　怨

ありがたくおぼえ候。ただし、ないないは法華経をあだま

たも　そうら　上　他　寄　こと　被

せ給うにては候えども、うえにはたのことによせて事かず

憎　故　熱　原　者　こと　寄

けにくまるるかゆえに、あつわらのものに事をよせて、

塞　そうろう　そうら　かみ

かしこ・ここをもせかれ候こそ候めれ。さればとて、上

こと　寄　塞　そうら　おん　用　そうら　もの

に事をよせてせかれ候わんに御もちい候わずば、物おぼ

ひと

たま

置

たま

悪

えぬ人にならせ給うべし。おかせ給いてあしかりぬべきよ

そうら

神

主 とう

仰

うにて候わば、しばらくこうぬし等をばこれへとおおせ

そうろう

妻子

そうろう

おん 尋

候べし。めこなんどはそれに候とも、よも御たずねは

そうら

こと

静

置

たま

そうら

候わじ。事のしずまるまで、それにおかせ給いて候わば、

そうら

そうろう

よろしく候いなんとおぼえ候。

世

中

かみ

付

しも

寄

歎

多

そうら

よのなか、上につけ下によせてなげきこそおおく候え。

世

在

ひとびと

世

無

ひとびと

雉

鷹

見

餓鬼

よにある人々をば、よになき人々は、きじのたかをみ、がき

びしやもん

楽

そうら

鷹

鷲

摺

の毘沙門をたのしむがごとく候えども、たかはわしにつか

毘

沙

門

修羅

責

まれ、びしやもんはすらにせめらる。

そのように、当時、日本国のたのしき人々は、蒙古国の

聞

羊

とら

こえ

き

ことをききては、ひつじの虎の声を聞くがごとし。また、

つくし

赴

愛

妻

離

こ

見

かわ

筑紫へおもむきていとおしきめをはなれ子をみぬは、皮を

剥 にく

破

そうろう

況

くに

はぎ肉をやぶるがごとくにこそ候らめ。いおうや、かの国

押

寄

じゃ

くち

蛙

包

丁

師

よりおしよせなば、蛇の口のかえる、ほうちようしが

俎

置

鯉

鮒

思

そうろう

まないたにおけるこい・ふなのごとくこそおもわれ候ら

こんじよう

いのち 消

いっぴやくさんじゅうろく

じごく

め。今生はさておきぬ、命きえなば一百三十六の地獄に

お

むりようこう 経

堕ちて、無量劫ふべし。

われ

ほけきよう

恃

そうら

浅

淵

我らは法華経をたのみまいらせて候えば、あさきふちに

うお 住 てん 曇 あめ 降 うお 喜
魚のすむが、天くもりて雨のふらんとするを魚のよろこぶ

がごとし。しばらくの苦こそ候とも、ついにはたのしかる
く そろろ 楽

べし。国王の一人の太子のごとし、いかでか位につかざら
こくおう ひとり たいし くらい 即

んとおぼしめし候え。恐々謹言。
思 そちら きょうきょうきんげん

弘安三年七月二日
こうあんさんねんしちがつふつか

日蓮 花押
にちれん かおう

上野殿御返事
うえのどのごへんじ

人にしらせずして、ひそかにおおせ候べし。
ひと 知 密 仰 そろろ